

ペシャワール会・PMSで
30年以上支援活動を続ける

ふじた ちよこ
藤田 千代子さん
(肝付町出身)

○ペシャワール会とは？

ペシャワール会は1983年に中
村哲医師のパキスタンでの医療活動
(ハンセン病の治療)を支援する
目的で結成されたNGO(非政府)
団体です。(ペシャワールはパキス
タンのアフガニスタンとの国境近く
にある地名のこと。現在はアフガ
ニスタンで活動している)

また、中村医師を代表に現地で

活動を行っているのがPMS(Peace
Japan Medical Services)という
現地事業体であり、その活動をペ
シャワール会が支えています。(中
村哲医師は2019年に死去され
ました)

PMSは医療団体ですが、病気
の背景に干ばつによる食糧不足と



↑アフガン難民の子供(写真:左)と
藤田さん(写真:右)



↑現場周辺村の子どもたちと

栄養失調があることから、農地の
回復が急務と判断し、今なお進行
する大干ばつのなか灌漑水利事業
に重きを置いて、医療・農業支援
を併行して、普及活動を進めてい
ます。

今回はそのペシャワール会・PMS
で支援活動を行っている肝付町
出身の藤田千代子さんにお話を伺
いました。

○藤田さんが参加することになっ
たきっかけ

鹿児島市の看護学校を卒業後、
福岡県の病院に看護師として勤め
ていた藤田さんは、中村さんの講
演を聞きました。講演の中で、現

地では女性が身内以外の男性に肌
を見せない習慣があり、女性のハ
ンセン病患者の早期発見が難しい
こと、治療が遅れていること、そ
のため女性の医療従事者が必要と
されていることを知り、参加を決
意したといえます。女性の医療従
事者として藤田さんを頼る現地の
女性患者は多かつたそうです。

○主な活動

赴任当初から看護師としての仕
事に加え、人材育成や井戸掘り、
食料の配給、中村さんが不在の際
は現地病院の院長代理を務めるな
ど様々な分野で活動をされてきま
した。

治安悪化により2009年に帰
国し、今も医療や農業事業、用水
路建設に取り組んでいる現地のス
タッフと連絡を取りながら基金管
理や資機材の管理などを行ってい
ます。

○藤田さんよりメッセージ

「日本もコロナ禍で大変な状況
ではありますが、私たちの活動を
通して、少しでもアフガニスタン
のことを知っていただけたら。」と
語っていました。